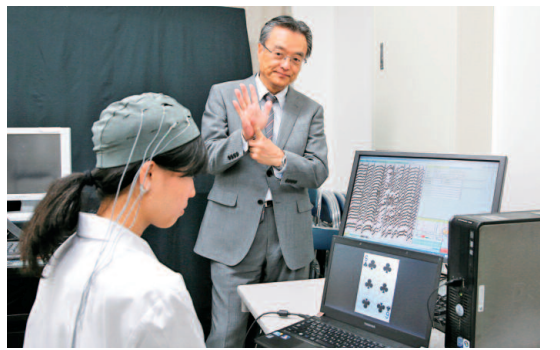


研究室の窓

工学部教授 山ノ井 高洋



浮かべたカードを脳波で当てるというもの。その判別率が90%を超え、10種類以上の対象物を区別できたことは画期的なことだと自負しています。



視覚情報処理実験室にて脳波でカードを当てる実験に取り組む

思い浮かべたカード 脳波で判別

ヒトが眼で見た情報は脳内でどのように処理されているのか。私の研究室では、工学研究科のハイテク・リサーチ・センターにおける研究の一環として約15年にわたり、脳波計測とそのデータ解析によってこのメカニズムの解明を行ってきた。そして今年3月、一つ大きな研究成果を国内の学会に発表し、3月19日付け北海道新聞の夕刊にも取りあげられました。

さらに、脳波信号の判別には、従来から着目してきた右上前頭回に対応する国際10-20法の2、4、6、12番チャンネルから出力される

信号が有効と確認することができ、この数年は、失語症の基礎研究のために計測していた10種類の同一カードの画面に対する脳波を分析し、ほぼ80%の判別率の結果を得ていたことから、トランプでも同様に判別可能と考え、クラブの1から13までのカードを3人の被験者が「見た時」と「思い浮かべた時」の脳波を計測してコンピュータに入力。3人にそれぞれ約100回、順不同にカードを「見る」「思い浮かべる」動作を繰り返して、その脳波からコンピュータに判別させた結果、事前に10回程度の学習実験が必要



人文学部准教授 井野 葉子

「紫式部日記」の紫式部は、他人に心を閉ざした憂愁の人である。ところが『紫式部集』に残された夫藤原宣孝との贈答歌を見ると、宣孝の前では明るく積極的で勝気な紫式部像が浮かび上がってくる。宣孝の求愛をほったりと切り捨てたり、宣孝をなだめすかしたり、派手な夫婦喧嘩を繰り返してはみたり。彼女の心を明るくするのびのびとしたのは宣孝の力量だった

のかもしれない。宣孝の人柄を鮮やかに伝えるエピソードが『枕草子』に残っている。当時、吉野金峰山の金剛蔵王権現に参詣する人々は質素な浄衣姿で行くのが常識であった。ところが宣孝は、「浄衣を前で舞うお役目を賜った宣孝は、容姿端麗であった

トピックス

紫式部の旦那さま

権様も粗末な身なりにせよとはおっしゃるまい」と言いつつ、紫の袴に白い狩衣、下には派手な山吹色、息子には摺り模様の袴に青い狩衣、下には紅を着せて、華やかに連れ立って参詣し、見る者を仰天させた。派手好きで目立ちたがり屋、神仏をも恐れぬ大胆不敵



に違いない。この宣孝、お茶目なところもある。二人が結ばれる前、なかなか色よい返事をもらえなかった時、宣孝は恋文の紙の上に朱を点々と滴らせて贈ってきた。求愛を拒まれた悲しみの涙が枯れ果てた末に血の涙が出てきたと言わんとしているのである。幸せな二人の結婚生活は、宣孝の死によって二年余りで終わりを告げる。その後、娘を抱えて未亡人になった紫式部が執筆したのが『源氏物語』だと言われている。宣孝の面影は『源氏物語』の中に生きている。容姿端麗、奇抜なファッション、大胆不敵、皆に愛される光源氏のキャラクターだったのでないだろうか。

経済学部教授 佐藤 信



未来展望

安倍内閣の下で「農協改革」がすすめられている。2015年2月12日の安倍内閣施政方針演説では、「現行の中央会制度の廃止や会計士による監査の義務づけ等による農協組織の転換が提起された。安倍総理にあっては、「強い農業を創るための改革、農家の所得を増やす

ための改革」をすすめるため、農協改革が必須のようだ。水面下での準備は済んでいた。2013年1月からスタートした規制改革会議の農業ワーキング・グループにおいて、農協改革は当初からの検討事項だった。現地視察や農業団体

からのヒアリングも頻繁に行い、農協を含む農業改革の最後の会議が2015年2月10日。そこで農業協同組合中央会(全中)の廃止、一般社団法人への移行等が承認された。

この「農協改革」をどう見るか。政府や規制改革会議側の直接的な対象からは外れる。また全国に約700存在する地域農協は、「農協改革」の核心はここにある。

安倍「農協改革」をどう見るか

「高い収益性を実現」し、「農業所得の増大に最大限の配慮」をしなればならなくなる。地域医療をはじめ農村の住民生活を支えてきた農協事業を、経済機能に特化する法案だ。

協同組合の本質が解体される恐れがある。「農協改革」の核心はここにある。

在外研修 報告

工学部教授 原井 憲一

フランス ピアセル・ラデュエ協会

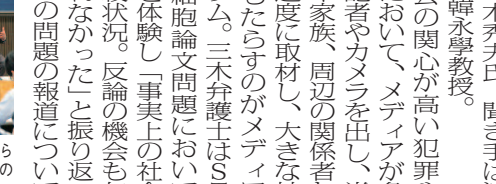
昨年4月1日から1年間の在外研修の機会をいただいた。当初、予定していた研修先エコール・デ・ボザール(ル・マン/フランス)の受け入れが担当の先生の異動で突然キャンセルされ、出発を目前に学長を始め事務の方々に大変なご迷惑をお掛けしましたが、結果的に予想以上の充実した研修内容となりました。

今回私の研修先となったピアセル・ラデュエ協会は、国の補助金を受けたアーティスト・イン・レジデンスの機能を果たした地方文化を継承する施設です。元々は建築の巨匠

フランスの田舎町ゆえに 可能となった共同作業

フランスの廃れない田舎町の文化(社会)といえます。ゆめ大学や研究所のように最先端の器材や様々な文献等を一つの施設に備えるほどの規模ではありません。特にピアセル(県庁所在地)は、サルト県の中で30キロは、サルト県の中でも本当に小さな町です。この施設のみを見てお世辞にも充実したとはいえないところでした。ただ、ここ

がフランスの廃れない田舎町の文化(社会)といえます。ゆめ大学や研究所のように最先端の器材や様々な文献等を一つの施設に備えるほどの規模ではありません。特にピアセル(県庁所在地)は、サルト県の中で30キロは、サルト県の中でも本当に小さな町です。この施設のみを見てお世辞にも充実したとはいえないところでした。ただ、ここ



第33回法学部×地域連携カフェ。右から聞き手の法学部・韓永学教授、話し手の三木秀夫弁護士、店長・樽見弘紀教授

経営学部グローバル人材育成セミナー 経営学部グローバル人材育成セミナーとして5月15日、50番教室において、札幌市平成27年度大学提案型共同研究報告会が開催された。これは、本学経営学部・内藤永教授と浦野研究教授を含む4人の研究者と札幌市経済局の共同研究事業チームで行われた

海外商談会で学生が通訳 経営学部は今後も継続して学生通訳を派遣していく。韓教授は「小保万さん個人に焦点をあてた野次馬的な取りあげ方になっていった」と指摘し、「小学生のうちから、正しい報道を見抜く力を養うメディアリテラシーの取り組みが必要」と述べた。

第34回法学部カフェ

第34回法学部カフェは5月18日、「ムーミンとイッタラの国フィンランドの教育」と題し、60番教室で開かれた。話し手はフィンランド大学合同北海道事務所代表のユハ・トゥイスク氏、聞き手は法学部・五十嵐素子准教授。北海道とほぼ同じ人口のフィンランドは、人口が少ないが故にみな平等という考えで教育が行われる。教育費は無料、教師は「第三の親」と言われるほどの存在である。参加者は、日本と比較しながら、興味深く聞いていた。